

フローリングの床をいつまでも美しい状態に保つためのお手入れ方法についてご紹介します。日常のお手入れをきちんとすることで傷や汚れからフローリングを守る事ができますが、もし何らかの理由でワックスがけの必要が生じた場合には、以下の手順で塗布を行ってください。このタイプの床材は、目地部分に洗剤類が多量に染み込むとフクレが生じる可能性もあるので、必要以上に濡らさないよう、湿り拭きの要領で作業を行ってください。また、一般のフローリング専用ワックスを使用した場合、歩行頻度の激しい場所や水廻りなどでは水白化やワックスのハガレを生じる可能性もあるため、**耐水性に優れた高密着タイプのリンレイハイテクフローリングコート**をご使用ください。

■ワックスの塗り方


1

ワックスがけは天気のよい日に

室温が5℃以下の日や雨天など湿度の高い日にはワックスの乾きが悪く、仕上がりに影響しますので、できるだけ避けるようにしてください。


2

フローリング表面のゴミ・ホコリを取り除きます。

掃除機や乾式フロアワイパーなどを使用してゴミやホコリを取ります。化学雑巾や化学モップなどは使用を避けてください。


3

汚れを落とします。

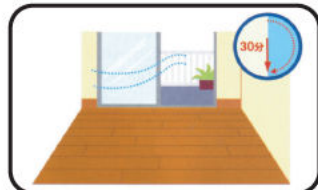
ウエット式フロアワイパーを使用するか、中性洗剤を水で希釈して、固く絞った雑巾などで床面の汚れを取り除きます。こびりついた汚れはネットスポンジなどでこすり落とします。**目地に洗剤が溜まらないように注意し、溜まった場合には直ちに拭き取ってください。**

ご注意！ 床面と洗剤類との接触時間は10分以内になるよう手早く作業を行ってください。


4

水拭きをします。

きれいに水洗いした雑巾を固く絞って、水拭きを2回行います。洗剤は乾かないうちに拭き取ってください。また、床面や溝に洗剤が残らないようにします。


5

床を十分に乾燥させます。

水分が残っているとワックスの仕上がりに影響しますので、約30分間ほど乾燥させます。扇風機を使用するのも効果的です。冬期は、暖房を25℃程度に設定すると、乾きを早くすることが出来ます。
※エアコンの除湿やドライ設定は気温が低下し乾きが遅くなるので使用は避けま


6

ワックスをモップに染み込ませます。

ワックスワイパー専用のトレーなどに塗布面積分のワックスを入れ、ワックスが垂れない程度にワックスシートなどに含ませます。

ご注意！ ワックスは床に直接まかないでください

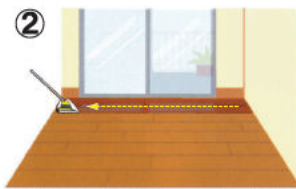

7

ワックスを塗布します。

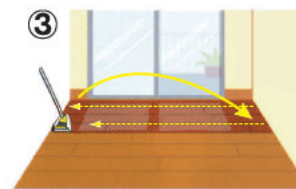
部屋の奥から壁に対して平行に床の木目や模様、目地に沿って薄くムラなく塗ります。途中で止めたり、折り返したりすると仕上がりが悪くなります。また、床の継ぎ目にワックスが溜まらない様にしてください。**ゴシゴシこする様な塗り方は、仕上がりを悪くします。**



① 部屋の奥の壁際から1cmくらい離して、ワックスワイパーを置き、そこから目地の方向に沿って塗り始めます。

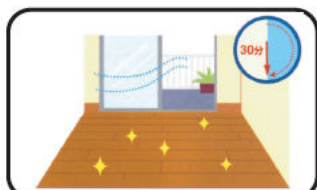


② 反対側の壁際まで、ゆっくりと途中で止めたりせずにワックスワイパーを引いてゆき、ワックスを塗ります。



③ 一列目が塗り終わったら、もう一度元の場所に戻り、ワックスを新たに含ませて同様の操作を繰り返していきます。

ポイント！ ワックスは塗り残しやカスレがないように注意して塗ってください。また、塗り残しなどに気付いても、ワックスが乾き始めている場合には手直しを行わないでください。


8

ワックスを十分に乾燥させます。

ワックスが乾くまでは歩いたり、ワイパーで擦ったりしないでください。乾燥には約30分間ほどかかります。扇風機を使用するのも効果的です。扇風機を使用する場合には、床に直接風が当たらない様に風の向きを調整してください。冬期は、暖房を25℃程度に設定すると、乾きを早くすることが出来ます。
※エアコンの除湿やドライ設定は気温が低下し乾きが遅くなるので使用は避けま

ご注意！ 水拭きをする際は、ワックスが乾燥してから24時間以上時間をあけてください。

※つや消しタイプの床の風合いを保ちたい場合には、ノンブライト(つや消しタイプ)をご使用になると、床材の風合いを活かしたまま床材を保護できます。(光沢のある床への使用はできません)



インデックス・ガイド

必要に応じて以下の資料をご参照下さい。

- ワックス後の日常のお手入れ ▶▶▶ **日常のお手入れ編** をご覧ください。
- ワックスのツヤが無くなってきた ▶▶▶ **ワックス中間お手入れ編** をご覧ください。
- ワックスを塗り直したい ▶▶▶ **ワックス塗り替え編** をご覧ください。